ごあいさつ

文学研究科長　添田 晴雄

大阪市立大学はその起源を辿れば19世紀にまで遡る伝統ある大学です。私たちの文学部は戦後の1949年、まず法文学部として出発し、1953年に文学部として独立しました。同年には、早くも文学部の大学院である文学研究科（修士課程）が設置されています。以来、「人文学」を中心に据えた教育・研究を一貫して展開しながら、徐々に組織の拡充をはかり、1970年代前半には、すべての専攻に修士・博士両課程を備えた、全国でも有数の規模を誇る大学院に成長しました。

文学研究科にとって近年の画期となったのは、21世紀の初頭（2001年度）に大学院重点化を達成し、研究中心の大学院大学として再出発したことです。折しもその翌年、2002年度には文部科学省の21世紀COEプログラムに文学研究科の「都市文化創造のための人文科学的研究」（2002～2007年度）が採択され、研究科における共同研究の高度化が一気に加速するとともに、学際的、応用的研究が進展を遂げました。

文学研究科は、旧来の伝統的な基礎学を大切にする一方、時代や社会の要請に応えるべく学際的、応用的な学問分野の開拓にも努めてきました。そして、直近では2020年度に文化構想学専攻を新設し、基礎・応用両面にわたる、より充実した教育・研究環境を構築しました。このような進展の延長線上に、これまでの理念、カリキュラム、教員体制を引き継ぎ、2022年度に、大阪公立大学大学院文学研究科（仮称・設置認可申請中）を設立する予定です。

また、文学研究科では、COE事業以来の研究拠点である都市文化研究センターが、若手研究者を含む研究プロジェクトを企画する一方、アジア、アメリカなど海外の大学との学術交流にも力を注いでいます。さらに、研究科の教育組織であるインターナショナル・スクールでは、若手研究者の国際発信を手助けする多くの実践的プログラムを提供しています。加えて、若手研究者を経済的に支援するさまざまな制度も整備し、修学環境をより向上させるべく努めているところです。

これまでに多くの優秀な研究者を輩出し、新体制の発足によりますます魅力を増した文学研究科で、ともに学問に取り組むみなさんを心からお待ちしています。

▶ 大阪市立大学大学院文学研究科ホームページ　http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/
▶ 大阪公立大学大学院文学研究科(仮称)ホームページ　https://www.upc-osaka.ac.jp/new-univ/about/gs_lit/

大阪公立大学大学院文学研究科(仮称)の

4つの特色

1. 世界的な研究拠点

21世紀COE※1プログラム（文部科学省による世界的研究教育拠点形成のための支援事業）や頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム（日本学術振興会）に採択されるなど、文学研究科は、グローバルな研究拠点としての地位を確立してきました。

文学研究科における研究拠点が都市文化研究センター（UCRC※2）です。都市や文化にかかわる研究プログラムがいくつも、並行して進められ、大きな成果を上げています。UCRCは、雑誌『都市文化研究』やオンライン英文電子ジャーナル"UrbanScope"を発行しています。

文学研究科やUCRCは、アジアや欧米の多くの大学と連携しています。教員や若手研究者の相互交流も盛んで、国際的なシンポジウムが数多く開催されています。

※1 COE：Center of Excellence（卓越した研究拠点）
※2 UCRC：Urban-Culture Research Center

2. 優秀な教授陣

文学研究科は、人文学、言語学、人間行動学などの多様な学問分野の教員からなっています。伝統的で確立した体系からなる学問分野はもちろん、文化構想学のようなユニークな特徴をもつ専攻も擁しています。

教員には、学界で活躍するベテラン、中堅の研究者が多い一方、新進気鋭の若手の研究者も少なくありません。彼ら彼女らによる多彩な研究活動は、国内外で高い評価を得ており、大学院生に対する最先端の教育へと結びついています。

文学研究科に併設される文学部もそうですが、少人数教育を大きな特徴としています。教員と学生（大学院生）との距離が短く、時間と空間を共有することの利点を活かして、大学院生の教育が行われます。

2022年度に開設予定の大阪公立大学大学院文学研究科（仮称）では、このような優秀な教授陣が継続して教育にあたり、大阪市立大学大学院文学研究科の特徴を継承する予定です。

3. 若手研究者を育て、伸ばす

文学研究科は、大学院生や、博士後期課程を修了した若手研究者に対して、充実した教育をおこない、安心して研究を進めることができる環境を用意しています。

都市文化研究センターは、若手研究者を「研究員」として採用しています。UCRC研究員になれば、大阪市立大学学術情報総合センター（図書館）を利用したり、『都市文化研究』に投稿することができます。

インターナショナルスクールでは、自らの研究成果を国際的に発信できる若手研究者を育成するため、さまざまなプログラムを用意しています。学会発表や調査のための海外渡航を支援する制度もあります。

修了者は、日本国内外の国立・公立・私立大学の教員、その他の研究機関研究員のみならず、研究経歴を活かして、高等学校・中学校の教員、公務員、一般企業会社員、NPO職員として就職しています。

4. 開かれた門戸

大阪市立大学には、留学生の就学・研究を援助するさまざまな制度があります。学費の減免制度、各種の奨学金などです。社会人で大学院を目指そうとするみなさんには、社会人の特性に配慮した入学試験制度（社会人特別選抜）を設けるだけでなく、入学後、じっくりと研究を進めるための長期履修学生制度※3などを文学研究科として用意しています。

文学研究科はまた、大阪を中心とする地域での活躍、地域との連携を目指しています。上方文化講座は、大阪の地で育まれた伝統芸能「文楽」を学問的体系のもとに学ぶことができる貴重な場です。大阪市立大学は大阪市博物館協会と包括連携協定を結んでいますが、研究や人材面で文学研究科は大きな貢献をしています。この他、文学研究科教員の研究成果を広く市民に伝えるため、人文選書（和泉書院）や文学研究科叢書（清文堂）を刊行しています。

大阪公立大学大学院文学研究科（仮称）は、上記の諸制度を引き継ぐ予定です。

※3 長期履修学生制度：申請の条件について、詳しくはp.11を参照

研究科の概要

理念

21世紀を迎えた現在、これまでの「知」のあり方は大きく変わろうとしており、人々の関心や研究目的は多様性をますます帯びつつあります。大阪市立大学文学研究科は、そうした流行する「知」に潜む不易の本質を見すえて、学問的「知」の組み替えに挑戦してきました。そして、以下の理念の下に、既存の学問の垣根を越えて、都市文化を複合的にとらえる試みを続けてきました。2022年度からは、大阪公立大学大学院文学研究科（仮称）として、この理念とカリキュラムを引き継ぎます。

- 人文科学･行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象とそこに内在する普遍性を探究します。
- 人間、社会、都市、文化をとりまく今日的課題の解決に貢献し得る人文科学・行動科学の構築をめざします。
- 先端的研究成果をグローバルな視野から情報発信できる国際的競争力を備えた最高水準の教育・研究をめざします。

人材育成の目標

＜大学院博士前期課程＞

- 人文科学や行動科学の分野において、先端的知識と方法を身につけ独創的研究をみずから行いうる人材を育成します。
- 地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人を育成します。
- 生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人を育成します。

＜大学院博士後期課程＞

- 人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者を育成します。
- 国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者を育成します。

沿革

大阪市立大学大学院文学研究科は、1953（昭和28）年4月に、社会学・地理学・国文学・中国文学・英文学・独文学の修士課程6専攻をもって発足しました。その1年後の1954（昭和29）年には、哲学･心理学･東洋史学･仏文学専攻が増設され、翌1955（昭和30）年4月には、哲学･社会学･心理学･国文学･中国文学・英文学・独文学の7専攻の博士課程が設置されました。

その後、修士課程･博士課程において順次専攻が設置され、1971（昭和46）年4月に12専攻（哲学･社会学･心理学･教育学･国史学（のち日本史学）・東洋史学・地理学・国文学・中国語中国文学･英文学･独文学･仏文学）すべてにおいて修士課程、博士課程を擁する体制が整いました。

1974（昭和49）年6月の大学院設置基準の制定に伴い、1975（昭和50）年4月から、2年間の前期博士課程と3年間の後期博士課程とに区分され、前期博士課程は修士課程として取り扱われることになりました。

以後、長らくこの体制で推移してきましたが、2001（平成13）年4月に大学院が部局化されると同時に、これまでの12専攻は、哲学歴史学・人間行動学・言語文化学の3専攻に再編され、各専攻の中に14の専門分野（専修）が置かれ、これに新しくアジア都市文化学専攻（大学院課程のみ）が設けられました。そして、いずれも前期博士課程と後期博士課程をもつ4専攻として編成されました。また、2010（平成22）年4月に、言語情報学が言語応用学専修となりました。そして2020（令和2）年4月には、アジア都市文化学専攻に代わって新たに文化構想学専攻が開設されました。

さらに、2022年4月からは、大阪公立大学大学院文学研究科（仮称）として、大阪市立大学大学院文学研究科の理念、カリキュラム、教員体制を引き継ぐ予定となっています。

アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

文学研究科は、人間、社会、文化、言語に関心を持つ人間性豊かな人材を育成することを目標としています。それに対応して、以下のような人材を求めます。

＜大学院博士前期課程＞

- 人文科学・行動科学の専門領域に関する明確な問題意識と専門的知識を有する人
- 社会的経験をふまえて人文科学・行動科学の専門領域の研究を志す人

＜大学院博士後期課程＞

- 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な知識と独創的研究テーマを有する人
- 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を備えた人

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜大学院博士前期課程＞

- 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な専門的知識を培う。
- 人文科学･行動科学の専門領域において明確な問題意識をもって研究を行える能力を培う。

＜大学院博士後期課程＞

- 人文科学・行動科学の専門領域において深い学識にもとづき独創的な研究を行える能力を培う。
- 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を培う。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

＜大学院博士前期課程＞

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで修士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

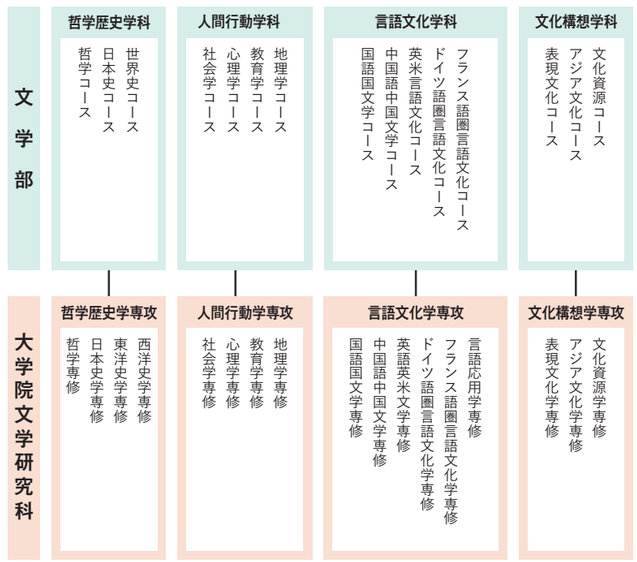
＜大学院博士後期課程＞

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで博士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

学部との接続

文学研究科の学部段階の教育研究組織として、文学部が位置づけられています。文学部は、「哲学歴史学科」「人間行動学科」「言語文化学科」「文化構想学科」の4学科、計15の履修コースからなっています。文学研究科との接続関係は、右図の通りです。

文学部の各コースとも、1学年、数名から十数名という徹底した少人数編成を採用しています。また、各コースが提供する多彩な科目の中から、学生たちは各自の関心に沿ってカリキュラムを組み立て、専門的もしくは学際的なテーマを探究していくことができます。こうした学修による成果をさらに発展させて活かすべく、文学研究科に進学する学生も少なくありません。



※組織体制は2022年4月開設予定のものです。

専攻・専修一覧と特色

専攻	特色	専修
哲学歴史学専攻	人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とします。哲学と歴史学という、方法論は異なるものの、人間文化の基礎を研究する両分野を統合したところに特徴があります。人間理解のための二つの基本的な座標軸といってよい哲学的観点と歴史学的観点を統合した教育研究体制は、激しく変動する時代潮流の中で、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを可能にします。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学の各専門分野を設けます。	• 哲学専修 • 日本史学専修 • 東洋史学専修 • 西洋史学専修
人間行動学専攻	人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代都市の社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えるような教育研究を行なうものです。その際に、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく人間行動や社会現象の分析と理解や理論化を重視します。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会やその中で生活する人間を客観的に観察する目を養い、大学、研究所等の研究職のみならず、教育、福祉、情報産業、官公庁における高度な専門的知識と技術をもった専門家として活躍できる人材を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、社会学、心理学、教育学、地理学の各専門分野を設けます。	• 社会学専修 • 心理学専修 • 教育学専修 • 地理学専修
言語文化学専攻	本専攻は、言語、文学、文化学およびその関連領域を研究しています。言語学分野は、日本語学（国語学）、中国語学、英語学、ドイツ語学、フランス語学という個別言語学と、英語・中国語・アルタイ諸語・日本語などを対象とした言語の比較研究、語用論研究、言語獲得研究などを扱う言語応用学から成っています。文学分野においては、日本の古代文学・中世文学・近世文学・近代文学、中国の文学、英語圏の近世イギリス文学・近現代イギリス文学・アメリカ文学・ニュージーランド文学、ドイツ語圏の近現代の文学、フランス語圏の19世紀の文学・20世紀の文学など多彩な研究が行われています。文化学というのは、伝統的な言語研究や文学研究に留まらず、文化や社会事象との関連に研究の幅を広げたもので、文学テクスト・演劇・映画・言語に現れる宗教・人種・階級・ジェンダー・コミュニケーションの諸相に関する研究が行われています。	• 国語国文学専修 • 中国語中国文学専修 • 英語英米文学専修 • ドイツ語圏言語文化学専修 • フランス語圏言語文化学専修 • 言語応用学専修
文化構想学専攻	文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかるために、理論と実践の双方から新たな文化研究を展開することを目的とします。さまざまな時代・地域やメディアにおける多様な文化現象のありかたを領域横断的に解明する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用にいたるまでの一連の過程について、教育、研究を進めていきます。このような教育、研究を通して、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想できるような研究者や専門職業人の育成をめざします。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、表現文化学、アジア文化学、文化資源学の各専門分野を設けます。	• 表現文化学専修 • アジア文化学専修 • 文化資源学専修

研究科組織

専攻	専門分野（専修）	教授	准教授	講師
哲学歴史学専攻	哲学	仲原 孝 高梨 友宏	土屋 貴志 佐金 武	
	日本史学	仁木 宏 岸本 直文 佐賀 朝	磐下 徹 齊藤 紘子	
	東洋史学	平田 茂樹 渡辺 健哉	濱本 真実 上野 雅由樹	
	西洋史学	北村 昌史 草生 久嗣		向井 伸哉
人間行動学専攻	社会学	石田 佐恵子 伊地知 紀子 川野 英二	平山 亮 笹島 秀晃	
	心理学	山 祐嗣 川邉 光一	佐伯 大輔 橋本 博文	
	教育学	添田 晴雄	辻野 けんま 島田 希	
	地理学	水内 俊雄（都市研究プラザ教授兼任）* 山﨑 孝史 祖田 亮次	木村 義成 菅野 拓	
言語文化学専攻	国語国文学	丹羽 哲也 小林 直樹 久堀 裕朗	奥野 久美子 山本 真由子	
	中国語中国文学	張 新民 大岩本 幸次	高橋 未来	
	英語英米文学	田中 孝信 豊田 純一	RICHARDS, Ian 古賀 哲男 内丸 公平	
	ドイツ語圏言語文化学	髙井 絹子	長谷川 健一	信國 萌
	フランス語圏言語文化学	福島 祥行 白田 由樹	原野 葉子	
	言語応用学	山崎 雅人 田中 一彦	辻 香代	小倉 雅明
文化構想学専攻	表現文化学	野末 紀之 高島 葉子 増田 聡	海老根 剛	
	アジア文化学	松浦 恆雄 多和田 裕司 堀 まどか	宋 恵媛	
	文化資源学	小田中 章浩 菅原 真弓	沼田 里衣 天野 景太	

*2022年3月末退職予定

2021年4月時点

研究支援体制

1．文学研究科独自の若手研究者支援制度

文学研究科では、若手研究者を支援するさまざまな制度を設けています。
（対象者略号　M：大学院博士前期課程在学者　D：大学院博士後期課程在学者　OD：大学院修了者または単位取得退学者）

（1）研究奨励給付金制度（対象者D）

博士後期課程に在学する優秀な大学院生に50万円を上限とする研究奨励金(返還不要)を給付する制度です。大学院生に研究に専念できる環境を提供し、研究者にふさわしい能力を育成することを目的としています。

なお、2020年度より全学においても30万円を上限とする大阪市立大学研究奨励金(返還不要)を導入しており、文学研究科の給付金と重複受給も可能です。

（2）中長期海外渡航助成制度（対象者D）

博士後期課程に在学し、中長期（3か月～1年）にわたり海外の大学や研究機関での研究を希望する大学院生を対象に、50万円を上限として助成を行う制度です。

（3）旅費支援制度（対象者M･D）

大学院生の国内における学会発表や学会参加、研究調査にかかる旅費（交通費・宿泊費）を支援する非常にユニークな制度です。支給額の上限は1回につき5万円です。

（4）文献複写費援助制度（対象者M･D）

大学院生に文献複写や授業用レジュメを作成するためのコピーカードを毎年配布する制度です。

（5）TA（ティーチング・アシスタント）制度（対象者D）

大学院生に有償で授業の補佐や研究室運営などの教育支援業務に従事してもらい、あわせて自身の教育研究者としての資質向上にも役立ててもらうことを目的とした制度です。報酬は業務内容等により異なります。

（6）博士論文出版助成制度（対象者OD）

文学研究科に提出した学位論文（課程博士論文）に基づく図書を刊行する際、50万円を上限に出版助成を行う制度です。申請時に学位取得後5年以内であることが条件です。

この制度を使って以下の書籍が刊行されています。

・木戸紗織『多言語国家ルクセンブルク－教会にみる三言語の使い分けの実例－』（2016年3月、大阪公立大学共同出版会）
・新谷和之『戦国期六角氏権力と地域社会』（2018年5月、思文閣出版）

（7）大学教育授業実習制度（対象者OD）

大学教員への道を目指しているポストドクター（PD）等を対象に、大学教員養成プログラム（プレFD）を実施し、その一環として文学部専門科目の一部授業を非常勤講師として担当してもらう制度です。大学教員としてのキャリア形成をはかり、大学への就職の可能性をより高めることを目的としています。

▶ http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/academics/graduate/early-career-researchers

※これらは、すべて大阪市立大学大学院文学研究科の2021年4月現在の制度です。

2．文学研究科インターナショナルスクール（International School）

文学研究科の教育組織であるインターナショナルスクールでは、グローバル化する研究環境に適応し、研究成果を国際的に発信できる若手研究者を体系的に育成するため、多数のプログラムを実施しています。

（1）インターナショナルスクール集中科目

文学研究科がカバーする研究分野について、学外から招いた講師が英語で講義します。また、講義内容について、受講者を交えて英語でディスカッションを行います。集中講義として開講され、博士前期課程の大学院生は、単位を取得することができます。

（2）英語プレゼンテーション・セミナー

大学院生やUCRC研究員を対象としたセミナーです。文学研究科の教員と外部語学学校のスタッフを講師として、英語による研究発表（プレゼンテーションソフトを用いた口頭発表形式）の実践的スキルを養成します。5月～9月の期間に週1～2回のペースで実施します。セミナー受講者は、インターナショナルスクールセミナーでの発表者や、アメリカ・イリノイ大学との合同シンポジウムの発表者として推薦されることがあります。

（3）インターナショナルスクール日常化プログラム

文学研究科の各専修が主催して、海外から招聘した研究者の講演を随時実施しています。誰でも参加でき、国際的な研究に日常的に触れる機会を提供しています。

（4）ライティングセミナー実践編

学外から講師を招聘し、英語による実践的な論文執筆法を学びます。

（5）インターナショナルスクール海外渡航支援

海外での学会発表や調査に対して金銭的補助を行います。

（6）外国語論文の校閲・翻訳補助

外国語で執筆する論文の校閲や翻訳などの費用を補助します。日本語を母語としない方には、2020年度から新たにプルーフ・リーダー制度を導入し、日本語で執筆する論文の校閲支援を行っています。毎年、10件前後の申請に対して論文校閲の補助をします。

▶ http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/IS/ja/

※これらは、すべて大阪市立大学大学院文学研究科の2021年4月現在の制度です。

3．都市文化研究センター（Urban-Culture Research Center：UCRC）

文学研究科・都市文化研究センターでは、毎年数十名のポストドクター・オーバードクターや博士後期課程大学院生などの若手研究者を「UCRC 研究員」として採用し、文学研究科教員の指導のもと、都市・文化に関する研究を推進しています。UCRC 研究員に採用されると、学術情報総合センター（図書館）が利用でき、「文学研究科プロジェクト」への参加資格も得られるほか、UCRC で発行している学術雑誌『都市文化研究』や英文オープンアクセスジャーナル『UrbanScope』への投稿が可能となります。

なお、新大学発足を機に、UCRC では新しいセンターへの再編を計画しており、新センター構想案を検討中です。構想案については、今後、研究科 HP などで公表していく予定です。

UCRC に関する詳しい情報は、以下の Web サイトで公開しています。

▶ http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/UCRC/

都市文化研究プロジェクト

都市文化研究センター（UCRC）ではこれまで、大学院生やポストドクター（PD）に対する学術面での積極的支援を行なってきました。この「都市文化研究プロジェクト」は、博士後期課程在籍者や PD 主体の起案型研究プロジェクトです。プロジェクト申請はグループ単位を基本としますが、研究員単独での申請や、博士後期課程大学院生の教員との共同参画も可能です。活動の機会として、定期的に開催される「研究フォーラム」など様々な学術交流の場が設けられ、研究成果を国内外へ発信するためのプラットフォームを提供しています。さらに、文学研究科教員によってすすめられる「研究科プロジェクト」とも密に連携をとり、すぐれたプロジェクト提案者に対する文学研究科あげての経済的・機会的支援を行っています。この他にも、UCRC 研究員の活動の促進と研究員相互の学術交流の支援を目的として、各種プロジェクトが行われています。

※これらは、すべて大阪市立大学大学院文学研究科の2021年４月現在の制度です。

4．大学院生への経済的支援制度

大学院生への経済的支援制度としては、授業料減免と奨学金があります。

授業料減免

本人の経済的状況などに応じ、授業料の減免を受けることができます。

授業料減免には、全額免除の他に、半額免除という制度もあります。毎年、申請者数の半分程度が、全額免除ないし半額免除を受けています。また一括納入ではなく、授業料の分納を認められるケースもよくあります。

奨学金

奨学金としてもっともメジャーなのは、日本学生支援機構のものです。日本学生支援機構大学院奨学生の定期採用においては、第１種：無利息と、第２種：利息付きの２種類があります。

このうち第１種にはかなりの確率で採用されています。第２種については申請者のほぼ全員が採用されています。特に、後期博士課程については、第１種申請者のほぼ全員が採用されてきました（以上は、あくまでこれまでの実績ですので、今後、変化する可能性が全くないわけではありません）。

この他に、大阪市立大学には、2020年度から導入された博士後期課程を対象とする研究奨励金（返還不要）があります。また、いくつかの公的機関や多くの財団、海外の機関などから提供される奨学金の制度が用意されています。特に、留学生のための奨学金は豊富な種類がありますので、入学後、国際センターで確かめ、積極的に応募してください。

なお、奨学金制度に限らず、外国人留学生の方々のための諸制度・諸組織については、以下のＨＰに詳しいので、留学生のみなさんは参照してください。

▶ http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/international/student

長期履修学生制度　－社会人院生のために

社会人などとして働きながら大学院生として研究し、修士論文、博士論文を執筆することは簡単なことではありません。そうした勉学意欲の強い方々をサポートするため、長期履修学生制度を設けています。

博士前期課程（本来２年間）の場合は、３年から４年をかけて課程を履修することができます。博士後期課程（本来３年間）では、４年から６年で課程を修了することができます。

余裕をもって研究に取り組み、じっくりと論文を仕上げることを保障するのが、この長期履修学生制度です。

この制度を利用するためには、職業を有すること、育児・介護などに従事していること、その他の条件があります。

大学院入学の直前（４月に入学する直前の３月）に研究科に対して制度の適用を申請する必要があります。また、制度の適用・使い方などに不安があるようであれば、受験前に、各専修の教員や学生サポートセンター文学研究科教務担当者とよく相談しておいてください。

私たちは、働きながら学ぼうとする大学院生を歓迎します。

※これらは、すべて大阪市立大学大学院文学研究科の2021年４月現在の制度です。

問い合わせ先 ｜ 学生サポートセンター１Ｆの文学研究科担当窓口までどうぞ
TEL：06-6605-2353　Mail：lit2010@lit.osaka-cu.ac.jp